



2021 RACE REPORT

AUTOBACS SUPER GT Round 7

MTOTEGI GT 300km RACE

2021年11月6日(土) ~7日(日)

ツインリンクもてぎ(栃木県茂木町)

#52 埼玉トヨペット GB GR スーブラ GT

得意のタイヤ無交換作戦で追い上げるも悔しい9位フィニッシュ

土曜日(予選日)の天候は晴。公式練習は9時25分から行われ、吉田選手がコースイン。早々にトップタイムをマークし、順調な仕上がりを感ぜさせます。川合選手に交代した後、硬さの異なるタイヤに交換し、吉田選手、川合選手の順にドライブ。ベストタイムは吉田選手がマークした1分46秒764で、順位は4位。元々もてぎはGR スーブラ GT が得意とするコースではありませんが、チームの努力によりクルマの改良が進み、サクセスウェイトがハーフ(45kg)になったことでスピードが向上。高いパフォーマンスを発揮しています。Q1は14時20分から行われ、GR スーブラ GT はA組に出場。ドライバーは吉田選手です。吉田選手は練習走行時にベストタイムを出したタイヤの新品を履いてコースイン。気温、路面温度ともに高いため、2周目からアタックを行います。吉田選手は4周目に1分47秒020をマーク。この時点で4位につけていますが、セッション終盤にタイムアップするライバルがいたため、正式結果は9位。Q1突破圏内の上位8位までに入ることができず、ノックアウトとなりました。予選後、悔しそうな表情を見せる吉田選手。

日曜日の天候は晴れ。チームはスタートドライバーに吉田選手を起用。タイヤはQ1で使用したものを履き、吉田選手のフィードバックをもとにタイヤ交換の有無を決定。後半のスティントを川合選手に託す作戦を採りました。吉田選手はイン側から1コーナーに進入。スタート順位と同じ、18位でオープニングラップを終えます。吉田選手は序盤こそ集団の中でペースを上げられない時間が続きますが、2回目のフルコーススイエロー(FCY)が明けた15周過ぎからペースアップ。18周目に#30 プリウス、さらに20周目に#60GR スーブラ GT を抜き、14位まで上がります。その後もペースは衰えず、24周目には1分49秒640のベストラップをマーク。吉田選手からのタイヤのフィードバックは良好で、チームはタイヤ無交換で最後まで走り切る決断をします。上位が次々とピットに入中、吉田選手はハイペースで周回。32周目には3位まで上がります。35周目の終わりに吉田選手がピットイン。川合選手に交代し、作戦通り給油のみで再スタートをしますが、エンジンがストップしそうになり、若干のロス。11位でコースに復帰し、予選上位のマシンの前に出ることに成功します。その後、#11GT-Rを追いかける展開が続きますが、徐々にフロントタイヤの摩耗が進行。徐々に離されますが、上位のピットインにより、40周目に10位、さらに46周目に9位まで上がります。ランキングトップの#61BRZがスピンにより6位まで順位を下げており、川合選手は全力でプッシュ。しかし、上位との間についた差は大きく、追い上げはここまで。9位でフィニッシュし、2戦連続の入賞を記録しました。今回の結果により、埼玉トヨペット Green Brave のチームランキングは7位に。チャンピオンの可能性は消滅しましたが、残るは得意の富士ラウンド。昨年の最終戦同様、ポールトゥウィンで有終の美を飾れるか、非常に楽しみです。

決勝結果(GT300)

#52 埼玉トヨペット Green Brave
GR スーブラ GT
(吉田広樹/川合孝汰)

決勝：9位

(59周、1時間52分27秒272)

予選：18位

(Q1A組9位、1分47秒020)

GT300 決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	Hitotsuyama Audi R8 LMS (アウディ R8 LMS)	59
2位	ARTA NSX GT3 (ホンダ NSX GT3)	59
3位	リアライズ日産自動車大学校 GT-R (日産 GT-R NISMO GT3)	59
4位	JLOC ランボルギーニ GT3 (ランボルギーニ ウラカン GT3)	59
5位	HOPPY Porsche (ポルシェ 911 GT3 R)	59
6位	SUBARU BRZ R&D SPORT (スバル BRZ GT300)	59
9位	埼玉トヨペット GB GR Supra GT (トヨタ GR スーブラ GT)	59

天候：晴 路面：ドライ ※トップ6まで(出走28台)



DRIVERS VOICE

吉田広樹選手



(予選後) Q1 を突破するために、ソフト側のタイヤを履きました。グリップ感があり、自分もミスせず、うまくまとめられたと思ったのですが、タイムを見た時にあれと思って。これはやばいと思ったのですが、ミスもなかったのもう1周いったところでタイムを出せる感じがなくて。順位的には難しかったのですが、レースに使うタイヤでもあるので、そのままピットに入りました。

(決勝後) 予選で上位に入ればいいレースができたと思うので残念ですね。ポイントは取れましたが、チャンピオンを狙うにはポイント云々の話ではありませんでした。自分たちのいいところとまわりのいいところが違って、単独で走ればタイムを上げられるのですが、混戦になるとなかなか難しく。自分が乗っているスティントは悪くなかったのですが、後半が厳しくなるのはわかっていたので、しょうがないと思います。

川合孝汰選手



(決勝後) 後半のスティントを任せてもらったのは去年の鈴鹿以来。思ったよりタイヤが厳しかったのと、再スタート時にクラッチ操作を間違えてしまいました。アンチストールで1回エンジンが落ちてしまったのですが、そのあとすぐに発進できました。セーフティカーの導入を狙っていたのですが、全部FCYになってしまい、淡々とレースが続きました。ランキングトップの#61 BRZの前に出たかったのですが、ちょっと厳しかったですね。#61BRZ はスピンしていましたが、それでも追いつけなかったのも、予選でのポジショニングが大事だと思いました。交代した時からフロントタイヤのグリップがなく、自分なりに走行ラインを試行錯誤しながら変えていき、そこからラップタイムを上げられました。前も後ろにもいないようなところを走っていたので、後半スティントの難しさはそんなに経験できていないと思うのですが、今回、そこをまかせてもらったのは自分としてはプラスだと思います。



チームランキング GT300

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1 位	61	R&D SPORT	73
2 位	56	KONDO RACING	68
3 位	55	ARTA	63
4 位	244	Max Racing	61
5 位	11	GAINER	53
6 位	88	JLOC	53
7 位	52	埼玉トヨペット Green Brave	51

トップ7まで



PARTNERS



アルパインマーケティング株式会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社 Team Iwakiri Japan



埼玉スリーボンド株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



トヨタモビリティパーツ株式会社



株式会社ドーム



株式会社テイトナ・インターナショナル



株式会社ハッピーライフ彩生

※50 音順

【次戦予告】 第8戦は 11月27日～28日 富士スピードウェイ (静岡県)